

後閑小学校 地域説明会 会議録

- 日 時 令和8年1月16日（金）19：00～20：15
- 場 所 後閑小学校多目的ホール
- 参加者 地域住民 11名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 2名

1 再編準備委員会の設置等について

- 事務局 資料に基づき説明
保護者からの質問等への回答

2 質疑・応答

住民 A この説明会の議事録は、いつまでに公開されるのでしょうか。

事務局 本日の説明会の議事録については、出来れば2、3週間位を目途にホームページの方に掲載させていただきたいと考えています。

住民 A 文科省の手引きで、「強引な進め方はよくない、丁寧な説明が必要である」と書かれていますが、今回、「後閑小学校の今後の方向性に係る説明会の開催について」ということである。来年度、あと1年ちょっとで廃校にするっていうことですよね。なのに、「今後の方向性に係る説明会の開催について」っていう題名にされたのはどうしてですか。

事務局 どういった標記にするかというところは、色々な考え方がありますけれども、1番最初に説明させていただいたとおり、本年度から後閑小学校は教頭配置がないという、今までにない組織体制になっています。こういった状況を踏まえ、1学期の間、その状況について、確認させていただいたところ、やはり令和10年度ではなくて、1年前倒しをするという早急な対応が必要であろうという考え方へ至り、このような対応をするお願いをさせていただいたところです。

住民 A 教頭の配置がないのは、今年からですか。そうすると、人数がちょっと増えたら、今後、教頭が配置される可能性もないことはないですか。一体、何人になれば、教頭が増えるんですか。

事務局 今年度から、教頭配置なしとなったのは、通常学級が2学級になったからです。現状として、後閑小学校の1年生・3年生が0人になっています。仮に今後、この今0人の学年に児童が入ってきた場合においてもすぐに教頭配置されるかというと、非常に難しい。令和10年度に統合という計画がある中で、この学年に児童が入ったからすぐ教頭配置できるかは、分からない状況

です。

住民 A 現在、2年生と4年生で変則複式になっていますよね。2年生と4年生だったら、生活科と社会・理科っていうことで、担任の先生のご負担がすごく大きいと思うんですけど、岡山県では、過去にはそういうことをしないっていう申し合わせで、1・2年の複式はあり、3・4年の複式はありってなったんですけど、この2年と4年の複式っていうのは、今、岡山県で他の学校でも採用されているんですか。

事務局 県内で、そういう変則の複式の学級があるかどうかは分かりませんが、今年度、後閑小学校の学級編成を決定する上で、県の教育委員会の確認・指導のもと、このようになったということです。

住民 A 県教委に聞いたら分かるということですか。

事務局 他の学校の状況の確認がいるということであれば、県教委への確認をとることはできます。

住民 A 後閑小だけ2年と4年の変則複式を認められて、担任が配置されていないっていうことになると、これは平等性をちゃんと担保してくれてないと思ってしまいます。

また、私は後閑小の統廃合に反対の立場で意見を言わせていただきます。昨年11月21日に玉野市議会議長宛てに後閑小学校の統廃合についての陳情ということで、1年前に反対ですと保護者の総意と後閑小学校区のほとんどの方が賛同して、令和9年度の後閑小学校の統廃合を中止することの陳情書を出されています。にも関わらず、1年前倒してこういう計画を出されましたよね。文科省の手引きにある「粘り強い会話」っていう文科省の方針と、正反対だということにはなりませんか。前倒しを決定した理由っていうのが、曖昧なんですけど、もうちょっと具体的に教えていただきたいんですけども。教頭先生がいないこととが校長先生のご負担が、すごく大きいのはよくわかります。それはよく分かります。

学校 今日せっかくここへ参加していますし、学校の現状を伝えるのは、やはり校長が一番よく分かってるし、伝えられると思ってここに来させていただいています。学校の今の厳しさがまだまだみなさん伝わっていないと思っています。教頭がいなくなるということが、令和6年度の終わりに分かりました。子どもが入学して来ないということと、引っ越ししていくことで、学年が歯抜けになってしまった状況になり、私も慌てました。それでも、学校が始まり

ますから、今いる教職員と教頭がやっていた業務をどうやって分担していくかを考えました。全て私が引き受けているわけでもないですし、私が引き受けられるわけでもないので、職員と話し合いながら分担してやっています。ですので、私だけが大変なのではなく、他の職員も大変です。その前の年よりも業務が増えている。若い教職員の家庭で、小さい子どもを持っている教職員は、早く家に帰りたい、保育園に子どもを迎えるに行かないといけない中で、それまでやっていた仕事に加えて、教頭業務をどうしてもやってもらわなければいけないので負担になっているというところがあります。ですから、職員にとってみれば、今の後閑小で働くのは大変だと感じているだろうと思います。そういうことをはっきり口に出して文句を言う教職員はいません。どの先生たちも、子どもたちのことを本当に一生懸命考えてますから、今の状況で最善のことをしようということで、とても協力的にやってくれています。管理職が1人いないということが、どれぐらい厳しいかをもう少し具体的に話しますと、教頭は学校の窓口であったり、PTAの活動や地域の活動などを担当しています。例えばお客様が来たら、教頭がいれば対応をしますが、教頭がいないので、私が対応することもあり、その時にいる職員が、今この時間でやるべき仕事があるけれど、やってもらっています。そういう負担があります。また、小さい学校でも他の学校と同じように出張があって、いろんな研修や会議に参加するのですが、出張で担任の先生がいないところを、普通であれば教頭先生が自習をしてくれたり、授業をしてくれたりすることになりますが、そういった対応もできません。そのため、出張に出るということもなかなか難しい状況になっています。それでも必ず行かなくてはいけない出張はあるので、そこをなんとかやりくりしてやっています。また、先生たちも我が子の参観日などで休みを取りたい日もありますし、突然、子どもが熱を出して休まないといけないとか、先生自身が体調を崩して休まないといけないという時に、教頭がいないということでとても苦しい状況にあります。児童が増えたら教頭がまた配置される可能性もあるかなと私も少し期待していましたが、それでもこの1月までそんなことは起こらずにいます。教頭がこのまま配置されないのかなということを考えた時に、私は校長として、この状況は教職員に負担がかかり過ぎているなと感じています。そのため、教育委員会と話をしながら、今の状況はとても苦しい、勤務態勢としても苦しいということをお伝えしています。改善するような方法が他にもあればと思いますが、今のところは、1年でも早く他校へ編入して、この状況を解消するという選択肢は、私としては必要だろうと考えてきました。そういう状況を皆様にお伝えしたくて話をさせていただきました。

もう一つ、後閑小学校の児童がものすごく少なくなっている状況で、校長として厳しいな感じているのが、学習環境です。学ぶことに関して、複式でない学校だったら、こんなことが出来るのになと思うことがあります。例

えば、体育の授業、チームでサッカーをするとか、ドッジボールをするとか、そういう授業は出来ません。本来なら、この学年ではみんなやっているということが、人数が少ないせいで出来ないっていうことが起きています。複式でももう少し人数が多くかった頃もあるんですけど、それよりもっと減っていて、大変厳しくなっています。この状況は、大丈夫なんだろうかと思っています。複式学級のことをみなさんがどれくらい理解されているか分からないので、説明をさせてもらいますが、1・2年生が一緒のクラス、3・4年生が一緒のクラス、5・6年生が一緒のクラスというような学級になります。担任は1人しか付きません。ですから、5年生・6年生の学級に1人の先生が付いて、その1人の先生が全部教えます。5年生、6年生の両方を教えます。例えば、算数の授業だったら、5年生の教科書で教室の前半分に5年生座らせて、後ろ半分に6年生座らせて、前の黒板で5年生の算数の授業をして、「みんな出来るかな、分かったかな。じゃあ、ちょっと練習問題やっててね」ってやって、次は6年生の方に行って、「教科書のここを開いて、はい、ここね」っていうふうに説明をして、勉強するんです。こういう勉強なんです。ということは、教師は半分の時間しか関われないんです。半分の中で子どもたちは自力で学習していく。分からないところがあっても、「先生」ってすぐ呼べなくて、今、他の学年を見るから後でねって我慢させることもあるかと思います。そういう状況が普通の複式の授業です。ですが、なかなかそういう授業は厳しいし、子どもたちの理解がきちんと出来ていない中で、どんどん進んでいくっていうのは難しいので、後閑小学校ではそういう授業をしていません。本当はそうしないといけない。玉野市は、市の予算で非常勤の先生を配置してくださって、算数はきちんと5年生と6年生分けて先生がついて勉強を出来るようにしてくださっています。大変、ありがとうございます。でも、全ての授業を分けてやっているわけではありません。社会科や理科は、1人の先生が5・6年生を一緒にして授業をしています。5年生の社会の内容は、日本の地理、6年生は歴史を习います。どうやっているかというと、本来5年生は5年生の社会をしないといけないけれども、年によって、この年は6年の歴史を1年間学びます。次の年は、5年生の地理を学ぶ、という教育課程になっています。ですから、ある年の5年生は、6年生の教科書を1年間学習します。子どもたちにとってしんどいだろうなと思うのは、その学年の勉強をせずに1つ上の学年の勉強をすることです。習っていない漢字が出てくる教科書で学びます。理科でも同じようなことが起きます。図工や音楽もそうしています。体育もそうですが、複式というのはそういうことなんですね。自分がその学年にいて、その時に習わないといけない内容があるのに、1年先の内容を習ったり、逆に、下の学年の内容を習ったりするような逆転現象が起きています。子どもたちの今の様子を見ていて、1個飛ばして上の学年の勉強させていることは、大きな負担をかけていると私は感じています。

今回、教頭がいなくなつて大変厳しい状況になつて、1年でも早くという思いがあるんですが、複式という形態のまま勉強し続けることも、とても苦しいなと感じています。この2つをあわせて考えて校長としては、少しでも早くこの状態をえていかないといけないと思っています。それが、子どもにとって良いことだと考えています。それぐらい、後閑小が小さくなつてしまつて、少なくなつてしまつて、この現状をご理解いただきたくて、お話をさせていただきました。教職員の体制も厳しいですし、子どもたちも苦しいなと思っています。最後にもう一つ、子どもが少ないので、子どもたちは今、限られた中で人間関係をつくっていますが、話す相手や遊ぶ相手が限られています。やはり、もう少し大勢な子どもたちの中で気の合う子を探したり、いろんな話をしたり、大きい学校ではもっと出来るだらうなと、そういうことも考えると、今回、1年前倒しで再編することは良いことだらうと思っています。

事務局 先ほど陳情書のことについて、ご質問がありました。地域の皆様からの陳情書については、しっかりと受け止めて、重く受け止めているところです。そういう中で、今、校長先生からお話をあったように、後閑小学校につきまして、様々な学校運営上の課題があるということを伺つたところです。教育委員会としても、他の小学校の児童と同じように、学校の学びの質、そして安全、授業、そういうものをしっかりと提供していく必要があると考えており、そういうところに支障をきたしているというところがありましたので、先送り出来ない課題だと考えたところです。そのため、できるだけ早く、地域の皆様や保護者の皆様と話し合いをさせていただきたいというところで、昨年の12月に保護者の方々にまずは説明をさせていただき、そして今日、地域の皆様方にお集まりいただきまして、説明会をさせていただいているというところです。

住民 A よく分かりましたが、統廃合で吸収合併ですよね。しかも、準備委員会を開かないというやり方で、統廃合を進めるということですよね。そうなつた時に、この環境の変化に敏感な子どもたちが、不登校とか精神的な苦痛を被るリスクっていうのが、どれぐらいあるっていうふうに評価されますか。小規模校だから通っている子っていうと思うんですよ。

事務局 子どもたちにとっては、学校が変わるとともに、集団が大きくなるということで、本当に対応出来るか不安や心配があることは、こちらもよく分かっています。実際に、説明会で、保護者の方と話をした際、やはり、その部分を心配されているということで、交流活動等の充実そういったことをしっかりと見て進めていく必要があると考えています。一緒になる前に少しでも色々

な活動をし、友達になって、スムーズに新しい学校で生活が出来るように、そういったことを進めていくことを考えています。

- 住民 A 遠距離通学になるので、バスとかタクシーになるって言っても、やはり子どもの自由な時間が奪われると思うんです。だから、そういった部分の時間配分のシミュレーションなんかをしていただきたいと思っています。あと、複式学級＝教育の質の低下っていうふうに聞こえたんですけども、それは、客観的なエビデンスがありますか。
- 事務局 複式の教育の質の低下というのではなく、複式学級で学ぶことの大変さ、子どもたちの負担、そういったことを校長の方からも説明がありました。エビデンスがどうこうというより、少なくとも校長先生が実際に、後閑小学校の日々の子どもたちの様子から、現状の教育環境として望ましくないという判断に至ったということです。
- 住民 A 環境として望ましくないんだったら、教育委員会が複式を解消するために、今、やってくれていることを拡大するとか、例えば、常勤を1人配置していただけば、出張のことについてもだいぶ緩和されると思うんです。だから、そういったことをせずに後閑小を廃校にするって一気に全部なくしてしまうっていうことは、私はちょっと違うじゃないんかなっていうふうに思います。ちょっと別の質問になるんですけども、近隣の岡山市とか瀬戸内市に噂話だけでは、小規模特認校制度っていうのを活用して、あえて、小さい学校を残しますよね。岡山市では、6つの小規模特認校があると思うんですけど、それは、その学校の特色ある教育を市の魅力として発信して、そういった特認校をつくっています。玉野市は、これらの制度を導入せずに、廃校を選んだっていうのはそれはどうしてですか。なぜ、特認校という選択肢はなかつたなんでしょうか。
- 事務局 確かに、他市では、小規模特認校制度っていうのを活用して、学校を残す手段として取り入れている自治体もあります。計画を作るにあたって、検討委員会を開催させていただきました。学校選択制の部分的導入というのが、小規模特認校制度っていうことになるのですが、そういった手段も検討委員会の中で協議しました。適正規模・適正配置計画の策定にあたっては、小規模特認校制度というのは、今の玉野市の学校の配置上、バスなどを使って、少し行けば、別の学校が近くにあるっていうところで、小規模特認校制度を取り入れるのではなく、統廃合という形の再編を計画させていただいたところです。

- 住民 A 玉野市は不登校が平均よりも多いですよね。そういうので、特認校があれば、そういった子たちも救われるかなと思って、そして、後閑小が救われるかなと思って、発言しました。
- この統廃合を全部進めると、市教委の試算で、教職員が 150 名削減されるっていうふうに聞いたんです。約 15 億円分の単純計算になると思うんですけど、その使い道っていうのは、計画されてるんでしょうか。それから、これらの実績で胸上小学校が統廃合されたんですけど、50 名の子どもたちが胸上小に行きましたよね。それに対して、教職員は 1 人も増えていないっていうふうに指摘がされてるんですけど、当たってますか。
- 事務局 胸上小学校の教員数については、学級数が変わりないということで、教職員の配置というのは変わっていない状況になります。
- 住民 A 増えてないっていうことですね。なんで、教職員で 150 名も玉野市からいなくなってる、それでその部分の負担が子どもたちにいくのではないかっていうふうに心配しています。是非、統廃合を全体、後閑もそうなんんですけど、小学校は踏み留まつていただけたらっていうふうに思っています。
- 事務局 職員が削減されることによって、人件費が削減されるところをどう活用するかというご質問があったと思うのですが、基本的には、こちらの人件費につきましては、概ね県の予算になります。市の直接的な予算ではございません。ただし、学校再編にあたっては、拠点となる学校については、必要な教室の確保などに必要な設備投資は、確実にしていきます。
- 住民 A 県費の職員と市費の職員がいるのは分かるんですけど、市費は学校司書さん、用務員さん、それから特別支援員さんっていうあたりは市費ですよね。その人件費については、教諭とか校長・教頭・養護教諭は、県のお金ですね。県費の職員が減ったって、玉野市がまったく潤わないですね。そこまでして、教員を減らして、学校を減らして、後閑に子育て世帯が定住するでしょうか。統廃合した学校の地域に、子育て世帯は定住するでしょうか。普通に考えたら、胸上に家を建てて、胸上の地価が上がります。後閑は、もうほとんど、地価下がる一方です。田井がぐっと上がります。っていう地域でアンバランスが生まれて、そして、移住出来る人たちは、そこへ移住し、出来ない人たちがその地域に残るという形で、後閑は恐らく、このあと子どもたちがまったくいなくなる。そういう地域になるという理解でいいですか。
- 事務局 学校再編につきましては、あくまで、財源を削減するっていうものではなくて、児童・生徒の学習環境を充実するということが最大の目的です。学校再

編は市の一般財源の削減が目的ではありません。後閑小学校がなくなると後、子育て支援が低下するというところでございますが、確かに、学校というものは1つの子育て施策として重要なファクターです。ただ、今回の再編は、先ほど説明させていただいたとおり、児童・生徒の教育環境の充実というところでの取り組みですが、子育て施策というのは、現金給付や、子ども医療の助成など、さまざまな施策を総合的に展開していく上で、市全体で子育て施策をどう充実させていくかというところが重要ですので、学校だけっていう一つの視点で捉えるのではなくて、もう少し広い視点で捉えていただくのが良いかなというふうに考えています。さらには、再編後に地域の拠点がなくなるということで、地域の衰退に拍車がかかるかもしれないというような地域の方々の声っていうの把握しています。そういったところも後閑小学校の跡地活用とか、どう活用していくのかというところは、非常に重要なところだと思います。こうした、跡地利用については、地域の在り方とか、シティデザインが大きく関わってくるところで、今現在、教育委員会だけでなく、玉野市役所全庁をあげて、どういった取り組みが必要かっていうところで考えているところでございます。具体的には、学校跡地利用検討プロジェクトチームというのを設置しており、市の15の部署でそれぞれの課が検証を進めています。来年度になりましたら、さらに一步踏み込んで、跡地利用の基本計画の策定を進めることとしていますので、今後は、そういった基本計画に基づきまして、個々の学校の跡地利用、どういったところを利用していくのかっていうところを具体化を図っていくというような形で進めていくとしております。

住民 A 地域がとり残されると困るんですけど、学校がなくなったら、後閑からは公共施設がすべてなくなりますね。保育園もなくなりましたし、公民館も元々ないし。そういった地域を守ってくれる立場なのか、それともどんどん減らしていくっていうね。それをやっぱり市として、考えてほしいし、そして本当に地域の人の意見を聞くつもりであれば、是非、アンケート取ってほしいんですけど、取れませんか。後閑小を令和8年度をもって閉校にすることにどう考えますかっていうこを。決して、無理なことを言ってるつもりではなくて、地域の人に、意向を聞くっていうのが筋じゃないかなって。もちろん、保護者や子どもたちにも。いかがですか。

事務局 アンケートっていうところも1つの手法ですが、今回は、実際に、学校運営上の課題が非常に大きいというところで、こういった会を開催させていただいた上で、アンケートっていうのではなくて、直接ご意見をいただく場を設けさせていただいている。改めて、こちらとしては、こういった会を設けさせていただく中で、そういったご意見をお伺いできればと考えております。

今後、別途アンケートを取るというところまでは、今のところは考えていません。

住民 A 後閑小の今後の方向性に係る説明会の開催では、後閑小を令和 8 年度に廃校しますっていうことは伝わりませんよ。もう一度、説明会を開いて、後閑小学校は令和 8 年度に閉校します。その説明会です。という案内で出していただけませんか。現に、これだけですよね。参加した方たちは。恐らく、伝わってないと思います。それから、屋間も開いていただかないと、お年寄りの方が参加出来ないと思いますが。
後閑小をなくすっていうことは、後閑の地域を大きく変える、非常に重大なことだと思いませんか。そういうことなんです。

事務局 実際に、他の方の意見も色々あると思いますけど、ご要望としてお聞きさせていただきます。その他の方々が、どういったご意見をお持ちなのかっていうところも踏まえまして、どういう対応をするかということにはなると思います。

住民 B 今回のチラシは、私がちょっと内容が分からなかったんですが、それは、各自お配りしたんでしょうか。

事務局 広報たまの 1 月号に、折り込みでさせていただいている。

住民 B 広報たまですか。ポストに入ってたんですが。

事務局 地区ごとに配布の仕方が色々あると思うんですが、広報たまの 1 月号を配布する時に、合わせて配布をお願いさせていただいている。

住民 B じゃあ、もうみんなにお配りしてるんですよね。だったら、もう一度集まって説明会を開催する必要はないんじゃないでしょうか。ここに来てない人も見てるんだから、次、集まる必要ないと思うんです。私は、そう思うんですけど。

事務局 ご意見、ありがとうございます。

住民 C 私は、小学校というものは、地域のコミュニティの中心だと思うんです。何をするにも、子どものことが中心で、この小さい後閑小学校でも、みんなここを中心にコミュニティ活動をしてると思うんです。それを簡単に、閉校にするというのは、私には考えられません。この学校を作ったのは、みんなの

地域の運動によって出来たんです。それで、私は、この学校というのは、親たちが結集をするのも学校中心です。だから、もう単純に、複式だったら授業数がどうのこうのおっしゃるけれど、それよりも、地域のみんなから子どもはとても愛されて育つのです。その意味から、今日の会合で私は納得出来ません。後閑小は、今までみんなで作ってきた学校です。団地も作りました。そういう意味から、単純に学校を閉校にするということは、反対です。どうしても、納得出来ません。学校というものは、コミュニティの中心なんですよ。親たちが集まって、色々するのも、みんな小学校。保育園とか中学校とかの親の地区を中心にして、一番地元にあるのは、小学校なんですが、私は、絶対ここが閉校になることに反対します。全部守りたいと思います。そんなに簡単なものではないということを、しみじみ思っております。

事務局 ご意見、ありがとうございます。

住民 A 最後に 1 つだけいいですか。対等な統合でなく、吸収合併するっていうこと、準備委員会が開かれないとっていうことは、これは、平等性の観点からどうお考えですか。準備委員会、なぜ開かないんでしょうか。他のところは全部開きますよね。

事務局 後閑小学校の再編がちょっと特殊なところがありまして、先ほど説明させていただいたとおり、再編準備委員会を立ち上げる予定はございません。というのも、後閑小学校の再編については、元々令和 10 年度に山田小と胸上小、それから後閑小の再編を進めていくこととなっております。仮に、後閑小学校の再編時に、再編準備委員会を立ち上げて、学校名等を検討した場合、翌年度の 3 小学校の再編準備委員会で、再度、その内容を検討していくという形になりますので、後閑小学校の再編準備委員会の決定事項が大幅に変更になる可能性があります。そうした意味で、この度、後閑小学校の再編に関しましては、準備委員会の設置を立ち上げないというような判断に至ったところでございます。

住民 A 今、後閑小にいる子どもたちや保護者の意見は、聞かないということで、そして、胸上小に行ってください、田井小に行ってくださいというそういうことです。

事務局 再編準備委員会につきましては、再編の賛否を問うものではなくて、具体的に、学校名等の具体化を進めていくための準備委員会っていう形での位置づけですので、そういった意味では、再編準備委員会が二重になってしまうというところがございますので、そこの設置は考えないっていうところでござ

います。

住民 A では、1年早める必要がないんではないでしょうか。

事務局 それは、先ほどから説明させていただいてるとおり、当初の予定よりも状況が変わってきてるので、1年前倒しをさせていただきたいというところでの説明会とそのお願いというところになりますので、この話と再編準備委員会の設置っていうのは、直接的には関係ないのかなとは思います。実際に、令和10年度の山田小学校と胸上小学校の再編ですが、こちらのほうには、後閑小学校区の方々も参加していただく予定としていますので、そこでご意見はいただけるっていう形になります。